

2020年11月24日

日本ガス協会

日本ガス協会 広瀬会長 会見発言要旨

I. 菅首相の「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指す」旨の宣言を踏まえたガス業界の考え方について

<はじめに>

菅首相による「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指す」旨の宣言は、大変画期的、歴史的なものである。ガス業界はこれまで環境負荷軽減に向けた様々な取り組みを実施してきたが、今回の宣言を機会にさらに加速をしていきたい。宣言から間もないため、日本ガス協会としても組織的な議論やコンセンサスはこれからであるが、現時点の宣言に対する考えを述べる。

1872年に横浜でガス灯が灯って以来、我々は、「ガスを製造し、導管で供給し、需要家の用途に応じてサービスを提供する」というビジネスモデルで暮らしと産業を支えてきた。様々な環境変化や災害、他エネルギーとの競争の連続であるガス事業の歴史は、言わば「試練に正面から立ち向かい、時代の変化とともに自らを変えてきた」歴史であり、我々のDNAでもある。一方、将来に目を向けると、脱炭素や頻発する自然災害への対応、デジタル化など大きなうねりが起こっており、サステナブルな社会の実現に向けた社会や産業構造の変革が急務である。

時代がどうあれエネルギーは不可欠であり、S+3Eの高度化は重要課題。特に環境適合性に関して、菅首相が示した「2050年カーボンニュートラル化」の方針は極めてチャレンジングな目標であり、産業界においてもこれまでの温暖化対策の延長線上ではない、非連続な取り組みが必要となる。

エネルギーは「電力」だけでなく、民生・産業分野のエネルギー消費量の

約6割を占める「熱」、そして「運輸」など多様な形で利用されており、エネルギーを使用形態に合わせて適材適所に使い分け、エネルギー全体で最適化することが重要である。さらに、レジリエンス強化の観点でも、エネルギーネットワークの多重化は非常に重要である。また、エネルギーは生活と産業を支える血液であることから、この供給を途絶えさせることなく、円滑に脱炭素化社会に移行（トランジション）していく必要がある。こうしたエネルギーの多様化・多重化と、円滑なトランジションのために、我々ガス業界は、将来のカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に積極的に貢献していく。

1. カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて

(1) 基本的考え方

2050年までの30年間のトランジション段階と位置づけ、以下の取り組みを推進する。

① ガス体エネルギーの革新的イノベーション

水素、メタネーション、バイオガス、CCUS等ガス体エネルギーの革新的イノベーションに挑戦し、そのインフラ整備を図りつつ逐次導入していくとともに、当面はカーボンニュートラルLNGも活用し、2050年カーボンニュートラルの実現を目指す。まだ流動的な要素も多く、確定的なことは言えないが、現時点の目標イメージとしては、2030年までに5~20%、2040年までに30~50%、2050年までに95~100%の導入を目指したい。

② 天然ガスシフト・高度利用

累積CO₂低減のために、需要側の取り組みとして徹底した天然ガスシフト、天然ガス高度利用を推進する。

③ 国際貢献

水素をはじめとした世界的なガス体エネルギーの利用拡大に鑑み、日本の優れたガス関連技術を海外移転し、国際貢献と日本のプレゼンス向上に寄与する。

(2) ガス体エネルギーの革新的イノベーション

革新的イノベーションによって「パイプの中を流れるガス自体の脱炭素化」を進める。代表例であるメタネーションでは、パイプラインやガス機器などの既存設備がほぼ利用できるため、社会コストの抑制にも貢献できる。加えて、開発余地も大きく、日本の成長につながる分野である水素の直接利用にも取り組む。さらにバイオガスも活用し、ガス自体の脱炭素化を推進する。

(3) 天然ガスシフト・高度利用によるCO₂低減

燃料転換に加え、LNGバンカリングなど新たな用途への需要拡大による天然ガスシフトを推進。また再生可能エネルギーの調整力として期待され、かつレジリエンス強化にも資するコージェネや燃料電池等分散型エネルギーシステムの導入拡大、ガスシステムの更なる高効率化やスマートエネルギーシステムの普及促進を図ることで、着実なCO₂削減に貢献する。

2. 将来のガス供給の絵姿

イノベーション技術とガスインフラを組み合わせた将来のガス供給の絵姿を考えると、以下のように想定される。

- ①沿岸部：海外輸入水素を起点として水素導管網を構築、国内でカーボンニュートラルメタン製造(メタネーション)、受入

②都市部：カーボンニュートラルメタンを既存のガス設備を利活用して、安価に脱炭素化

③地域：カーボンニュートラルメタンと水素を使い分け、各導管網内で地産地消し、地域を活性化

3. カーボンニュートラル、脱炭素社会実現に向けたチャレンジ

我々のカーボンニュートラル化への挑戦は、ガス火力発電の原料が脱炭素化されるなど、電力の脱炭素化への貢献にもつながる。

このような脱炭素社会実現に向けては、「ガス導管網拡充等ガス体インフラの整備」、「水素等のコストダウン」、「国・自治体や他の産業界との連携・協調の推進」等が重要であり、我々はこれらの実現に向けチャレンジする。合わせて、カーボンニュートラル化に向けた具体的なアクションプランの検討を進める。

<おわりに>

ガスシステムは、脱炭素社会の実現のみならず、レジリエンス性の強化や、地方創生への貢献など、社会的課題の解決と経済発展を両立させることが可能である。今後も「環境と経済の好循環」にも寄与するガス事業の発展に向けてチャレンジし続ける。

以上